

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

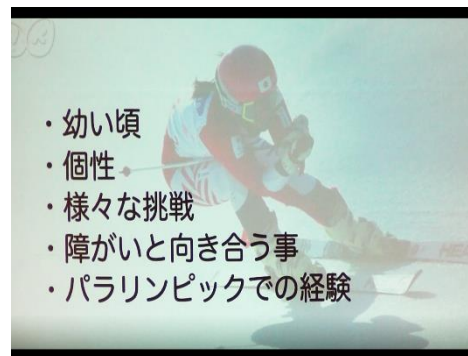
道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立嬭恋高等学校 】

1 実践テーマ	(I)・II・(III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	群馬県立嬭恋高等学校 全学年113名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (開校記念講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの実施競技の体験や競技者の話を聞くことにより、パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、障がい者への理解を深め、より良い共生社会を築ききっかけとする。
5 取組内容	○講演会(開校記念講演会) 日時：令和元年11月26日(火) 演題：「可能性を信じて」 講師：本堂 杏実 日本体育大学大学院在学 パラアスリート（スキー・アルペン） 先天性左全手指欠損でありながら幼少期よりラグビーに打ち込み続けていた。大学生の時にアルペンスキーを勧められ転向。現在まで各世界大会に参戦し上位入賞を果たしている。 事前指導：本堂選手のプロフィール等を配布 事後指導：感想文を通じて本堂さんが伝えたいことを振り返る (講師：本堂 杏実 先生)



(本堂先生による講演会の様子)



(代表生徒による謝辞・花束贈呈)



(講演会の内容)

本堂先生は5歳からラグビーを始めた。左手の指がないにも関わらず他の選手と同じように競技することができた事から、「みんなと同じ事ができる。」と考えるようになり、負けず嫌いな性格も手伝って一生懸命に取り組んでいた。

いじめにあうこともあったが、親御さんの暖かい心にも支えられ、自分に自信を持てば怖いものはないと思い「今しかできない事を今やる。」と考え、常に目の前の壁を乗り越えることを心がけていた。

大学進学後ラグビーを続けていたが、アルペンスキーを紹介さ

	<p>れ、軽い気持ちで始めたところ、その魅力に次第に引きつけられていった。ラグビーを続けるか、アルペンスキーに種目を変えるか迷ったが、ラグビーコーチから「チャンスを与えられたのならそれをやりなさい。」との言葉を受けスキー選手としての道を選ぶ。</p> <p>2019年の平昌パラリンピックでは8位に入賞をしたが満足をしなかった。練習はきついが、「自分で決めた道」であり、覚悟を決めて取り組み続けている。</p> <p>今回の講演会ではこのように先生のこれまでの人生を振り返りながら、大きな目標でも、小さな目標でも自分で決めたらそれをやるのが大切であり、それを続けることで「不可能を可能に変える」ことができると生徒たちにエールを送って頂いた。また、障がいがあってもなくても同じ人間であり、一つの個性として見てほしいと、障がいを持つ人との関わり方についてアドバイスをして頂いた。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○実際にパラリンピックの選手と交流することができ、障がい者に対する理解やパラリンピックへの関心を高めることができた。</p> <p>○講師のこれまでの生き方を参考に、障がいの有無に関わらず自分らしく生きていくことの大切さを学ぶことができた。</p> <p>○生徒の感想文より（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番心に残った言葉が『小さな目標、大きな目標をかなえる。そして、誰かに笑われても、何かを言われても気にせず努力する。』という言葉です。私は誰かに何を言われても夢を叶えたいと思います。 ・本堂先生が言ってくれた『楽な道はたくさんあるけど、自分で決めた道は覚悟を決める。』が一番心にしみました。 ・先生の話聞いて障がいがあってもみんなと違わないということを知ることができました。『不可能を可能に変える。』という言葉にすごく勇気をもらいました。 ・失敗しても、友達に笑われても、集中して必死に立ち向かい、そして日々を大切に過ごすことを目標に頑張っていきたいと感じました。 ・これまで私は、障がいについてしっかりと考えていませんでした。しかし、今回の講演会を聞いてとても反省しています。今後は偏見を持たずに、自分のことを見つめ直していきたいと思いました。 ・本堂さんの話を聞いて自分の弱さに気が付きました。自分の考えを改め、負けずに頑張り、不可能を可能にしていきたいと思いました。 ・『過去は引きずらない、自らきつい道を選んでいるのだから覚悟を決めろ。』という言葉聞いたときとても心に刺さりました。大学でもスケートを続けていくので、どんなことがあっても諦めず、全てを受け入れて前を向いて頑張っていきたいと思います。
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○スケート競技と並んで本校の代表スポーツであるスキー競技に焦点を当て、パラリンピックとうまく連携できるようにした。</p>

8 主な課題等	○講演のみではなく、体験型の講演会や、グループディスカッション等を取り入れ、より実感が湧くものとしてたい。
9 来年度以降の実施予定	○単発的な行事とせず、機会があるごとに障がい者に対する理解を深める指導を行う。 ○オリンピック・パラリンピックの東京開催に向けて、生徒の興味・関心をより高められるような指導をしていく。